

ボランティア活動報告 —盛岡市立上田小学校・仁王小学校の実践—

仁昌寺真一*, 菊地 洋*
(令和3年2月1日受理)

NISYOUJI Shinichi, KIKUCHI Hiroshi

Morioka City Ueda Elementary School and Nio Elementary Volunteer Activity Report

1 学習支援ボランティア活動の目的(趣旨)

地域の学校への学生派遣を通し、学校教育の実際、教職員の指導や経営、子どもの思い、保護者や地域の方々の思いを知り、教員へのあこがれをもつことができるようにするとともに、課題意識を具体的にもって教育実習や教員採用試験に臨む気構えや資質能力を身に付けることができるようにする。

2 学習支援ボランティア活動の実施構想

【資料① 学生の学校派遣実施計画】参照

3 学習支援ボランティア活動実践の経過

(1) 上田小学校・仁王小学校への依頼・共通理解 (令和2年6月17日)

上田小学校、仁王小学校へ出向き、それぞれの校長へ学習支援ボランティア活動の受入れを依頼した。また、【資料①】をもとに、活動の目的や進め方を共通理解した。各小学校で受入れの可否について検討の上、連絡をいただくこととした。

これまでは、仁王小学校のみ実践してきたが、岩手大学に最も近い上田小学校を加え2校で実践することとした。

(2) 学習支援ボランティア活動の意志確認 (令和2年7月14日・15日)

それぞれの小学校より、学習支援ボランティアによる教育支援活動を9月ごろから開始したい旨、連絡があった。その際、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、規模を縮小し、無理なく実施することを確認した。

(3) 学習支援ボランティアの募集 (令和2年7月22日～8月25日)

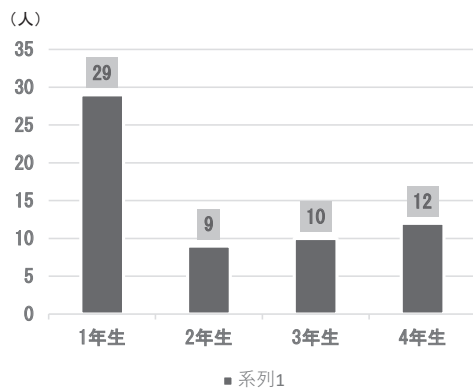
【資料② 学習支援ボランティア募集】のちらしを作成し、学生に広報し、ボランティア登録の意志を募った。広報活動として行った方法は下記の通りである。

- アイアシスタントへの募集ちらしの掲載
 - 拡大募集ちらしの掲示(教育学部1号館・2号館の玄関付近)
 - 個々の学生への募集ちらしの配付
- 今年度は、下記の点について留意し募集することとした。
- ① 仁王小学校、上田小学校、両校希望の3つを選択肢とする。
 - ② 1年生から4年生まで学年を固定せず、オープンにして募集する。教育学部に入った学生に対し、できるだけ早く学校現場の雰囲気を感じてもらう場を保障したいと考えた。
 - ③ 募集ちらしに添付の登録用紙(申し込み用紙)の他、メールによる申し込みも可能とした。

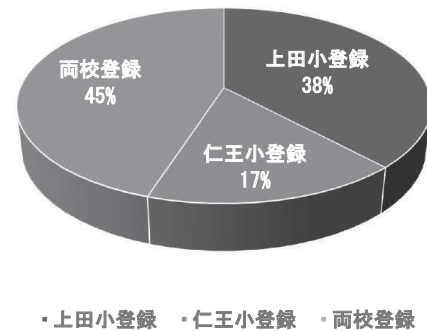
表1 学習支援ボランティアの登録数

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
仁王小学校	5名	1名	2名	2名	10名
上田小学校	14名	2名	5名	2名	23名
両校	10名	6名	3名	8名	27名
合計	29名	9名	10名	12名	60名

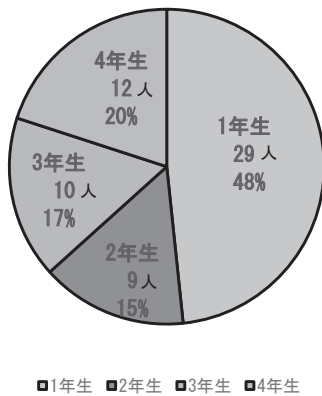
【図1】 学年別登録人数



【図3】 学校別登録人数と割合



【図2】 学年別登録人数と割合



(4) 学習支援ボランティア登録者の把握

(令和2年8月27日)

募集の結果,学習支援ボランティアの登録数は図1のとおりであった。

下記の点において特徴がうかがえた。

- ・【図1・2】より,1年生の登録数が最も多く,本実習を経験していない1年生,2年生の登録数が全体の63%を占めていることが分

かる。学習支援ボランティア活動に対するニーズの高さを改めて実感した。

- ・【図3】より,大学に近い上田小学校を希望する学生が非常に多く,両校希望の学生を含め,全体の83%を占めていることが分かる。新規受け入れ校である上田小学校でのボランティア体験に対するニーズの高さを感じた。登録の意志があった学生に対しては,受理の確認をメールで行った。

(5) 保険加入の手続き (令和2年8月31日)

ボランティア活動中の事故に備え,登録した学生全員,保険に加入した。加入手続きは,盛岡市社会福祉事務所(総合福祉会館内)で行った。一人当たり300円。(盛岡市内在住者は200円補助)経費はセンター予算の中から支出。

(6) 学習支援ボランティア活動事前説明会の開催 (令和2年8月31日 14:00 ~ E21教室)

【資料③】学習支援ボランティア活動実施要項を活用し,対面方式で事前説明会を開催した。3年生は教育実習主免実習の最中で出席が難しいこ

とから、事前説明会の様子を録画し、後日動画配信することで徹底を図るように努めた。

事前説明会で確認したことは下記のとおりである。

- ・ 学習支援ボランティア活動における態度について
- ・ 学習支援ボランティア活動の進め方
- ・ 学習支援ボランティア活動当日の具体的な動き
- ・ 注意事項
- ・ 【資料④ 学習支援ボランティア活動実施報告書】の配付と書き方について

特に、毎日、朝に検温をし、記録することや、ボランティア活動直近1週間以内に一度でも体温が37.5度以上あったときには、予定日の学習支援ボランティア活動は辞退することについて確認した。

(7) 各小学校訪問 (令和2年9月2日・7日)

【資料④ 校長宛文書】を持参し、受け入れ校である上田小学校、仁王小学校を訪問し、学習支援ボランティア活動を実施するにあたり、実施の目的や流れ等を再確認した。

特に、今年度は、【資料⑤ 学習支援ボランティア活動実施報告書】の記述・提出を通し、学習支援ボランティア活動の様子や成果等を、学生の側からも検証することを確認した。

(8) 学習支援ボランティア活動の実施

(令和2年9月1日～3月)

① 実施した学習支援ボランティア活動の内容 (詳細はアンケート結果参照)

- 図書館の環境整備(本の修理・コーナーの設置 等)
- 生活科校外体験学習支援(安全の見守り・グループ学習支援・個別支援等)
- 放課後学習支援(丸付け・個別指導 等)

② 活動の留意点

- 新型コロナウイルス感染拡大防止策をしっかりと講じる。(毎日の検温・来校時の検温

(非接触型検温器の購入,貸与 等)

(9) アンケートの実施

(令和2年12月23日・24日)

- ① 受入れ小学校,地域コーディネーターへのアンケートの実施(12月23日)
- ② 登録学生へのアンケートの実施(12月24日)

《アンケートの結果》

① 受入れ小学校 《2校》

ア 学生に依頼した学習支援ボランティア活動の内容

- 図書館環境整備作業(書架整理・本のラベル貼り替え・装飾 等)
- 生活科校外学習安全見守り(上田通りまち探検・高松の池散策 等)
- 放課後学習会で、各学年から出されている家庭学習(家庭で取り組む前の課題や宿題)の丸付けや補助指導(アドバイスや助言)

イ 学生による学習支援ボランティア活動を実施してみた成果

- 図書館の環境美化が成された。
- 児童の安全確保につながった。
- 家庭学習の取組に困難な状況(自力で取り組めない状況)が見られる子どもについては、友達とともに活動することで、所属感を抱きながら安心して学習することができる環境となった。

- 学習支援ボランティア(岩大学生)の方々に見守られながら励まされたり、褒められたりすることで、できる喜びを実感し、学習意欲を高める一助となった。

- 学習支援ボランティア(岩大学生)に任せることで、放課後の時間帯における担任の先生方の時間が確保され、授業の準備や教材研究等に従事することができるようになった。

ウ 学生による学習支援ボランティア活動を実施してみた課題・改善点

- 年間を見据えた学習支援ボランティアの活用計画の作成をすること。

- 放課後学習会に参加いただく学習支援ボランティア（岩大生）の参加可能な時間帯を把握することができなく、実施時間が変更となり、家庭に迷惑をかけてしまったこと。
- 学習支援ボランティア（岩大生）の人員配置に偏りがあり、子どもの参加人数に合わせた補充体制を整えることができなかったこと。

エ 子どもたちの声

- 「安全に見学することができた。」
- 「ボランティアの方から励ましてもらったり分からないところを教えてもらったりしながら、集中して学習に取り組めた。」
- 「分からないところをすぐ教えてもらい、苦手なところが克服できた。」
- 「みんなで一緒に取り組めることが楽しく、お互いに頑張り合いながら学習することができた。」
- 「静かに集中して学習に取り組める環境が整っていたので、充実した時間を過ごすことができた。」

オ 学習支援ボランティア活動に対する意見や要望

- 可能な限り、放課後学習会の学習支援ボランティアに留まらず、体験学習や見学学習への積極的な参加をお願いしたい。
- 実態に合わせた支援をしていただきたい。（学年からの情報提供をもとに）

② 地域コーディネーター

ア 学習支援ボランティア活動に対する地域コーディネーターとしての対応内容

- 放課後学習における学生への発信、依頼、取りまとめ、調整
- 放課後学習の受付、世話活動
- 校外学習引率補助やミシン学習指導補助における保護者ボランティアへの発信、依頼、取りまとめ、調整（保護者学習支援ボランティアのみ）

イ 上記1の対応をしてみた成果

- 子ども一人一人の学力・学習意欲の向上、

コミュニケーション能力の伸長

- 教職員の負担軽減、個々の学力と学習意欲の向上による学級経営の一助
- 学生の今後の教員としての資質能力の向上と人間としての成長の期待
- 地域コーディネーターとして、子どもたちと関われる喜びと、成長に携われる喜びの実感

ウ 学生による学習支援ボランティア活動に対し、上記1の対応をしてみた課題・改善点

- 小学校の対象の時間と学生の授業の空き時間との調整
- コロナ禍の中での実施の難しさ
- 地域との連携・活用を図るためのツール

エ 学習支援ボランティア活動に対する意見や要望

- 学生の真面目で真摯な姿に頭が下がる思い
- より多くの小中学校での実践

③ 登録学生

ア 学習支援ボランティア登録の動機

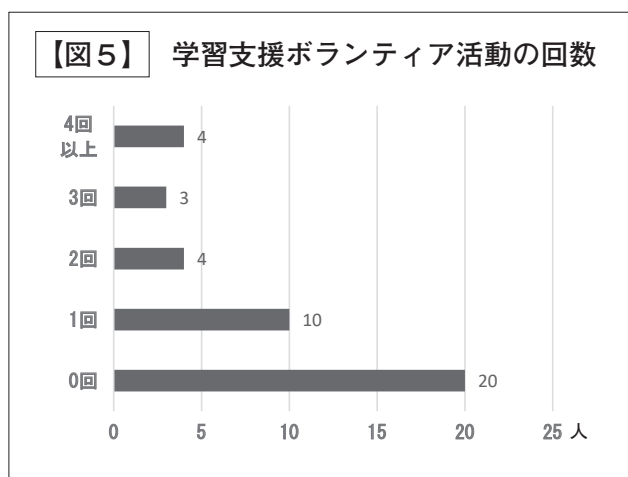
【図4】より、学習支援ボランティア登録の動機としてあげられているのは、「学校現場での直接的な経験を積みたい。」「子ども理解・かわり方を学びたい。」の2つがとて多いことが分かる。特に、教育実習主免実習前の1、2年生からは「教師を目指す上で、少しでも多く学校現場での体験を通して、子どもたちとのかかわり方を学びたい。」という声が、また、実習を終えた3、4年生からは「採用試験や4月からの教員

【図4】 学習支援ボランティア登録の動機



生活に向け、学校現場の雰囲気をつかんでおきたい。」という声が多く聞かれた。

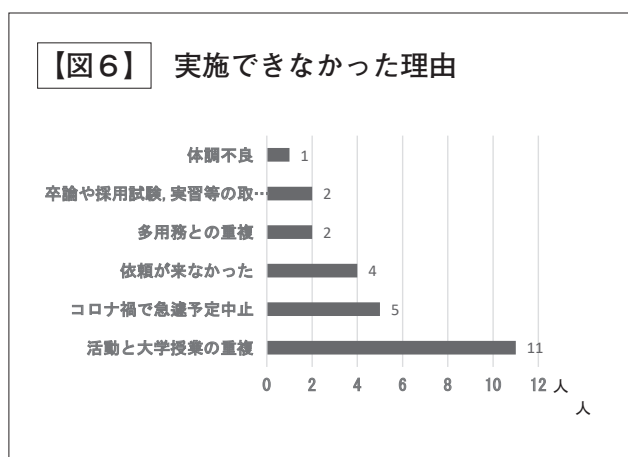
イ 学習支援ボランティア活動を行った回数



【図5】より、学習支援ボランティア活動の回数は0回、1回が非常に多いことが分かる。これは、コロナ禍の中、受け入れ校によるボランティア要請が少なかったことが大きな要因にあげられる。一方、3回、4回以上の回答は、3年生の学生に多かった。「主免実習後、継続して子どもとかかわり、学校現場での学びを深めたい。」という理由からである。

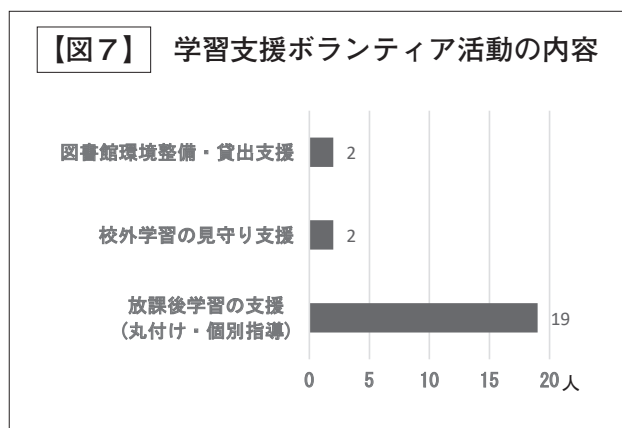
※ 0回の理由

【図6】より、学習支援ボランティア活動を実施できなかった理由は、「ボランティア活動と大学の授業の重複」「コロナ禍の中、急遽ボランティア活動の中止」「依頼が来なかったこと」が上位を占めた。コロナ禍の中、限りあるボランティア要請の中、やむを得ない部分もあると考



えている。子どもや学生の健康面に留意した取組を第一に考えた結果でもあり、事故なく推進できていることを成果とみたい。

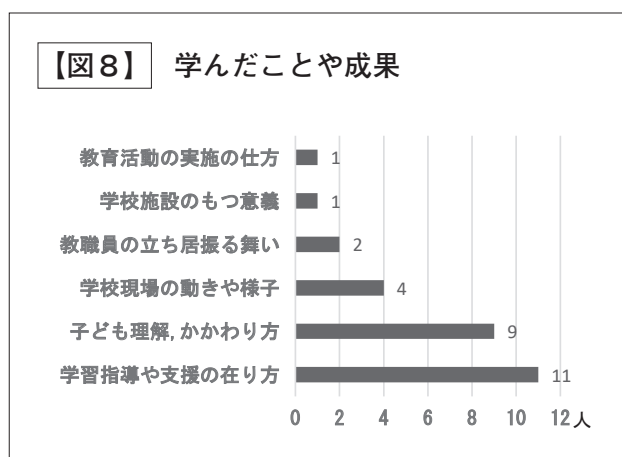
ウ 体験した学習支援ボランティア活動の内容



【図7】より、最も多かった学習支援ボランティア活動は、放課後学習支援であった。取り組んだプリントやドリルの丸付けや個別指導が具体的内容である。全学年対象の取組であり、一度に多くの学生にボランティア要請が入ったことが大きな要因である。生活科における校外学習活動の安全見守りやグループ学習支援活動、図書館の整備支援等多岐にわたるボランティア活動が成された。

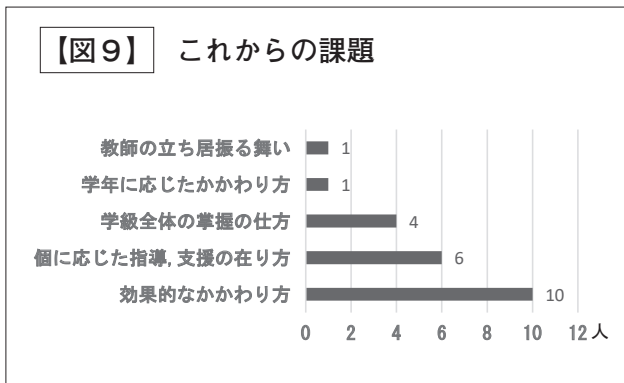
エ ボランティア活動を通して学んだこと・成果として受け止めていること

【図8】より、学習支援ボランティア活動を通して学んだことは「学習指導や支援の在り方」「子ども理解や子どもへのかかわり方」の2つが圧倒的に多かった。「悩んでいる子どもにポイン



トをおさえた指導に努めた。」「教えるだけではなく考えさせる支援ができるようになってきた。」「子どもの目線に立って励ましの言葉をかけるよう努めた。」等, 学生自分の成長を伺える声も聞かれた。

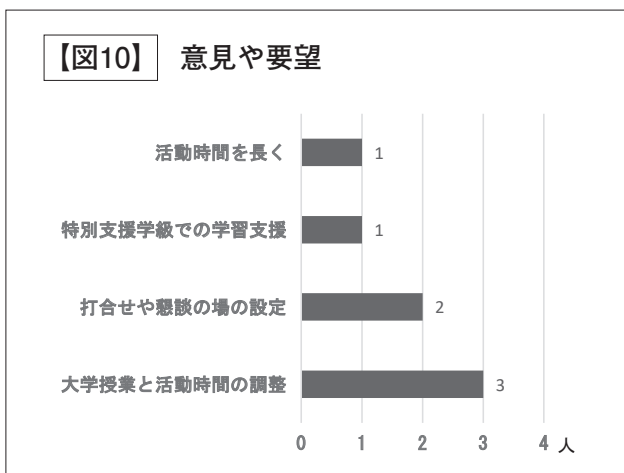
オ ボランティア活動を通して課題としてとらえていること



【図9】より, これからの課題として「一人一人の子どもに即した効果的なかわり方」「一人一人の実態に即した学習指導, 支援の在り方」をあげる学生が多くみられた。一人一人の子どもの学習意欲や態度, 知識, 技能等の違いを受け止め, やる気を引き出し, 伸ばす指導や支援の在り方を究明していきたいという前向きな課題である。一方, 個への対応だけではなく, 学級全体に目を向け, 掌握したり指示したりする力の育成を課題とする学生も複数いた。

カ 意見や要望

【図10】より, 今後の学習支援ボランティア活動に対する要望・意見として「活動と大学授業



の時間調整」「担任等との情報交換の場の設定」「特別支援学級での学習支援」等が出された。より充実した学習支援活動にしたいという学生の前向きな姿ととらえる。その他として, 「活動時間をもう少し長く」という意見も聞かれた。今後, 受入れ校との懇談の中で, これらの意見を話題にし, 可能なものは実現に向けて動いていきたい。

4 学習支援ボランティア活動実践のまとめ

(1) 成果

- 地域の学校への学生派遣を通し, 学校教育の実際, 教職員の指導や経営, 子どもの思い, 保護者や地域の方々の思い等を理解する一助となり, 教師へのあこがれをもつことにつながった。
- 課題意識を具体的にもって教育実習や教員採用試験に臨む気構えを促進することにつながった。
- 小学生の充実した学習活動につながり, 学力向上, 自己実現の一助となった。地域と共に子どもを育てる協働による教育を推進することかできた。

(2) 課題

- より多くの学習支援ボランティア活動により, 取組における有効性の検証を行っていく必要がある。コロナ禍における学習支援ボランティア活動の在り方について小学校とも対話を通して方向性を探していきたい。

学生の学校派遣実施計画

【資料】①

	岩手大学教育学部	小学校
1 目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の学校への学生派遣を通し、学校教育の実際、教職員の指導や経営、子どもの想い、保護者や地域の方々の想いを知り、教員へのあこがれをもつことができるようにするとともに、課題意識を具体的にもって教育実習や教員採用試験に臨む気構えや資質能力を身に付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域と共に子どもを育てる。【連携・協働の視点】 ○ 教師が、子ども理解を基本に、子どもと向き合う時間をつくり、基礎基本定着の一助にする。【学級経営・学力向上の視点】 ○ 教師も子どもも、多様な知識や経験をもつ地域の方々や学生とふれ合うことを通して、学習活動の充実を図るとともに、地域や学生への愛着を深める。地域人材資源の積極的活用を図る。【教育振興運動・地域資源活用の視点】 ○ より多くの大人目で子どもたちを見守ることで、よりきめ細かな教育活動につなげる。
2 連携の実際(例)	<p style="text-align: center;">☆ 学生学校派遣(小学校での学生による学習ボランティア)実施についての共通理解・締結</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">大学担当教員</div> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR A[大学担当教員] <--> B[学生] B <--> C[地域連携コーディネーター] C <--> D[小学校担当教員] D <--> E[学年・学級] </pre> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">学年・学級</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域の小学校へのボランティア体験」の趣旨と実施の仕方について学生に知らせる。(大学担当教員) ○ ボランティア希望者を募り把握する。(大学担当教員) ○ ボランティア登録する。(小学校へ申し出る)(大学担当教員 学生) ○ ボランティア案内をメールで受信する。ボランティアの可否を検討し、可能などときには、その旨回答する。(学生) </div> <div style="width: 10%; text-align: center;"> <p style="font-size: small;">子どもに分かりやすくヒントを与える学生ボランティア</p> </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学生ボランティアについて教職員間で共通理解する。(教職員) ○ 学年(学級)担任が、学生ボランティア活用について小学校担当教員に申し出る。(教職員) ○ ボランティア登録者へメールでボランティアの内容や期日等を案内する。(地域コーディネーター) </div> </div>	
3 期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の動き、学校の動きの具体的理解とやりがいの実感 ○ 子ども理解の深まり ○ 教師志望者の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ さまざまな学習活動、きめ細かな学習の実現⇒学力の向上 ○ 安心・安全な学習活動の実現 ○ 地域や学生への愛着
4 その他	<p>【学習ボランティアの内容例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後学習支援(○付けや個別指導) ○ 実技等学習支援(家庭科ミシン縫い補助 水泳・陸上等体育動きづくり補助) ○ 校外学習安全見守り支援 ○ 特別支援学級学習支援 ○ 算数学習支援 	

盛岡市立仁王小学校・上田小学校への 学習支援ボランティア 募集!



子どもに分かりやすくヒントを与える学生ボランティア

1 目的

- 地域の小学校での学習支援ボランティア活動により，① 学校教育活動 ② 教職員の指導や業務 ③ 子どもの想い ④ 保護者や地域の方々の想いを知り，教員へのあこがれをもつことができるようにする。

2 対象学年

- 岩手大学教育学部の学生（1年生～4年生）

3 学習支援ボランティア活動の内容例

算数科などの学習支援（個別指導や○付け等） 実技等の学習支援（家庭科ミシン縫い補助 体育動きづくり補助 毛筆書写支援等） 校外学習安全見守り支援 放課後学習支援 等）

4 学習支援ボランティア登録と活動の実際(予定)

- ① 学習支援ボランティア登録をする。（下記の『学習支援ボランティア登録用紙』に必要事項を書き，担当教員に提出する。）
【担当教員：仁王小→菊地洋（309研究室） 621-6518 hkikuchi@iwate-u.ac.jp
上田小→仁昌寺（408研究室） 621-6686 nishozi@iwate-u.ac.jp】
- ② 小学校の学習支援ボランティア窓口担当教員或いは地域コーディネーターからボランティア活動の依頼メール（活動期日・時間 活動内容 支援内容等）が登録者に送信される。[学習活動の2～3週間前]
- ③ 学習支援ボランティアの可否をメール返信する。[メール着信後3日以内に]
- ④ 小学校で学習支援ボランティア活動をする。
- ⑤ 実施後，『学習支援ボランティア活動実施報告書』（別紙）に必要事項を記入し，小学校の担当教員へ提出する。
(②～⑤を繰り返す。)

学習支援ボランティア 登録用紙

1 氏名(よみがな)	
2 学年・コース	
3 住所・電話番号	
4 メールアドレス	
5 登録する小学校 (○で囲む)	仁王小 上田小 両方の小学校

※ 電話番号やメールは，学習支援ボランティア活動に関わる以外には使用しません。

※ 登録を希望する学生は，8月25日(火)までに，菊地洋(309研究室→仁王小希望) 仁昌寺(408研究室→上田小・両方の小学校希望)へ提出してください。メール送信(上記1～5記載の上)による申込みも可能です。

学習支援ボランティア活動 実施要項

【資料】③

1 態度(姿勢)

- ① 学校は子どもたちが中心の場である。教育の一端に携わることに情熱と使命感をもち、誠実・真摯な態度で学習支援ボランティア活動に臨むこと。
- ② 学習支援ボランティア活動の目的をよくわきまえ、豊かな体験を得ることができるように努めること。

2 学習支援ボランティア活動の進め方

- ① 小学校の学習支援ボランティア窓口担当教員或いは地域コーディネーターからボランティア活動の依頼メールが登録者に送信される。(学習活動の2～3週間前予定)
◇ 活動期日・時間 ◇ 活動内容 ◇ 支援内容 等
- ② 学習支援ボランティアの可否(その日都合がつくかどうか)をメール返信する。(メール着信後3日以内に)
- ③ 小学校で学習支援ボランティア活動をする。
- ④ 実施後、『学習支援ボランティア活動実施報告書』(別紙)に必要事項を記入し、小学校の担当教員へ提出する。
①～④を繰り返す。

3 学習支援ボランティア活動当日の具体的な動き(例)

- ① 持参するもの(筆記用具 『学習支援ボランティア活動実施報告書』 マスク 等)
- ② 服装(授業等教育活動の支援→正装 放課後学習支援→私服)
- ③ 自転車は所定の自転車置き場へ置く。
- ④ 職員玄関から入る→あいさつをする(「岩手大学から参りました学習支援ボランティアの○○です。よろしくお願いします。」)
- ⑤ 担任等の指示に従って学習支援をする。
- ⑥ 学習支援活動終了後、『学習支援ボランティア活動実施報告書』に必要事項を記入する。
- ⑦ あいさつをし、報告書を小学校教員に提出し、退校する。(「岩手大学学習支援ボランティアの○○です。本日の学習支援を終了いたします。ありがとうございました。失礼いたします。」)

4 注意事項

- 学習活動開始時刻の15分前には出校し、あいさつ後、学習活動支援の簡単な打ち合わせを行うこと。
- 病気、その他の事由により出校できないとき、或いは遅れて出校するときは、事前に学校に電話連絡をすること。また、体調が悪くなったり、諸事情により早退したりしたいときにも、小学校の担当教員に申し出ること。
- 児童を校外に連れ出したり、児童の家庭を訪問したりしないこと。
- 毎日、朝に検温をし、記録すること。ボランティア活動直近1週間以内に一度でも体温が37.5度以上あったときには、予定日の学習支援ボランティア活動は辞退すること。

5 『学習支援ボランティア活動実施報告書』の配付について

- 学習支援ボランティア登録者事前説明会で配付します。説明会に出席しかねる時には、本実施要項と共に登録者全員にメール送信いたします。必要に応じてコピーをして使用してください。大学担当教員(菊地洋・仁昌寺)の研究室前にも準備しますので必要に応じて使用してください。

6 その他

- ボランティア保険への加入について
学習支援ボランティア登録者全員、一括してボランティア保険に加入します。予算、手続き共に大学担当教員が行います。ボランティア活動においてけが等が発生した場合には大学担当者にご相談ください。
- 連絡先について
学習支援ボランティア活動についての問い合わせや連絡等は下記に行ってください。

- ◆ 岩手大学担当教員
仁王小学校担当 菊地 洋 (きくち ひろし) ☎019-621-6518 hkikuchi@iwate-u.ac.jp
上田小学校担当 仁昌寺真一(にしょうじ しんいち) ☎019-621-6686 nishozi@iwate-u.ac.jp
- ◇ 仁王小学校 ☎019-623-4214 担当 主幹教諭 戸羽正和(とば まさかず)
- ◇ 上田小学校 ☎019-623-3428 担当 教務主任 島守由貴(しまもり ゆき)

【資料】④

令和2年9月 2日

盛岡市立上田小学校

校長 近藤 尚樹 様

岩手大学教育学部長

宇佐美 公生

本学部学生による 学習支援ボランティア(学生派遣)の受入れについて

残暑の候、貴殿におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、このたびは、本学部学生による、貴校への学生派遣(学習支援ボランティア)をお引き受けいただき誠にありがとうございました。心より感謝と御礼を申し上げます。

地域の学校において、教職員の動きを体感したり、子ども、保護者そして地域の方々の想いを実感したりすることを通して、教員へのあこがれを抱きながら、学生としてのさらなる学びを深めていくことができる機会の一つにいたいと考えています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止や新学習指導要領全面実施等、対応がたいへんな年度ではありますが、何卒趣旨をご理解の上、ご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

1 学習支援ボランティア活動期間 令和2年9月～令和3年3月

2 その他

① 学習支援ボランティア活動の進め方 【別添資料①②③参照】

※ 資料① 学生の学校派遣実施計画

資料② 学習支援ボランティア募集ちらし(登録申し込み)

資料③ 学習支援ボランティア活動実施要項(学生への事前指導資料)

② 学習支援ボランティア登録者一覧【別添資料④参照】 ※ 令和2年8月20日現在

③ 学習支援ボランティア活動実施報告書【別添資料⑤参照】

※ 学習支援ボランティア活動を行った学生が記述し、小学校の担当の先生に提出します。実施報告書は、大学担当教員が適宜、取りに伺います。

問い合わせ先

岩手大学教育学部附属教育実践・学校安全学研究開発センター

客員教授 仁昌寺 真一(にしょうじ しんいち)

020-8550 盛岡市上田三丁目18番33号

TEL 019-621-6686(直通)

E-mail nishozi@iwate-u.ac.jp

【資料】⑤

学習支援ボランティア活動 実施報告書

小学校名 _____

学生氏名 _____

		報 告 内 容
1	期 日 ・ 時 間	
2	学 習 支 援 の 内 容	(学年・学級・支援の内容等)
3	感 想	(学んだこと・成果や課題)